



2015年2月9日発行 第 **556** 号

CONTENTS

第12回 アジア中古車流通研究会のご案内 2
 上海街角インタビュー (66) 3
 【中国経済最新統計】 8

第12回 アジア中古車流通研究会のご案内

主催：京都大学東アジア経済研究センター

共催：現代中国地域研究京都大学拠点

後援：京都大学東アジア経済研究センター支援会

時間：2015年2月28日(土) 13時

場所：名城大学名駅サテライト(KDX 名古屋駅前ビル 13階)

<http://www.meijo-u.ac.jp/about/campus/msat.html>

司会

1、自己紹介 13:00-13:20

2、報告 13:20-17:00

□北島 義貴 (トヨタカローラ徳島 代表取締役社長)

タイのプーケットにおける販売店経営

□川崎 大輔 (プレミアムファイナンシャル 海外事業企画室マネージャー)

タイにおける中古車流通の現状

□上山 邦雄 (城西大学 教授)

新興国市場の多様性—中国とロシアを事例として

終了後 懇親会 (予定 旬鮮酒場天狗 堀内ビル地下1階 052-586-3660)

研究会の出欠はとりませんが、懇親会は予約の都合上、出欠を御連絡ください。

なおこの研究会は京都大学東アジア経済研究センター協会の法人会員・個人会員のみが参加できるクローズドな研究会です。非会員で参加希望の方は塩地 shioji@econ.kyoto-u.ac.jp まで協力会への入会手続をお問い合わせください。

今後の日程

2015年5月23日(土) アジア中古車流通研究会 京都大学法経東館みずほホール

上海街角インタビュー (66)

社団法人大阪能率協会アジア・中国事業支援室副室長 (海外委員)

順利包装集団董事 (在上海)

福喜多技術士事務所所長

福喜多俊夫

絶叫マシンに乗れぬ「小皇帝」 上海の「小皇帝」はひ弱か？

1月9日付の日経新聞に、「絶叫マシンに乗れぬ『小皇帝』」という記事が出ていた。昨年末に武漢で開業したテーマパーク「万達電影樂園」では宇宙船を操縦して隕石群をかいくぐるアトラクション「スタートラベル」が人気だが、揺れの設定は10段階中5段階に設定されている。日本では揺れが大きいほど人気があるが、中国ではそうではないようだ。理由は、「中国の若者は外で遊ぶ機会が減り体力が弱い。揺れが激しいと吐いてしまうからだ」と担当者は説明しているとのこと。

「一人っ子政策」のもと、生まれた子供は両親、祖父母に過保護に育てられ「小皇帝」と呼ばれる。ケガでもしたら大変と小学校の遠足やハイキングは激減したとのこと。北京教育科学研究院によると青少年の筋力、走力、瞬発力は25年連続で低下した。

私の友人の子供（小1）も頻繁に熱を出して学校を休むが、上海の子供は本当にひ弱になっているのだろうか？

1. 50歳代前半の男性

一人っ子政策により子供が過保護になっているということはありますね。一番目立つのは、風邪でも引いたら家族全員が緊張し、すぐ大学病院へ連れて行きます。季節の変わり目には大学病院の小児科は非常に混雑します。また、学校へ行くときは大人が送迎します。学校では激しい運動はあまりさせません。ケガをすると学校の責任が大きいのです。近年、高校生が1500メートルのランニング中に、急に倒れて死亡した事件が2、3件あり大きなニュースになりました。

絶叫マシンについて、上海の若者は好奇心が旺盛ですから、小さい揺れでは満足しないでしょう。要するに、大人になると普通ですが、小さいうちは非常に慎重に保護されるのは事実です。祖父母がいっしょだったら絶叫マシンなど、

絶対に乗せません。

2. 30 歳代前半の女性

ご存じのように、今の上海の多くの家庭では子供は祖父母に育てられています。殆どの子供は過保護になっています。うちの子供も同じです。この過保護という状況は当分変わることはないと思います。私も変えることは出来ません。過保護でひ弱いことは事実ですが、そのことが絶叫マシンに乗れないことに結びつくかどうか分かりません。うちの子供はまだ乗れる年齢になっていないので遊園地へ行ったことがありません。私ですか？ 私はジェットコースターのような激しい遊具は嫌いです。

3. 40 歳代前半の男性

私の娘は高1ですが、小さいときから学校でも家でも激しい運動はやっていません。勿論、小学校も中学校も体育の時間はありますが、ピンポンやバドミントンくらいです。今は、365日勉強漬けです。一般に上海人の家庭では子供に意図的に身体を鍛えさせることはやらないでしょう。頭より体が先に動く人間は軽蔑される傾向があります。

毎朝、公園で太極拳やダンスをしている人がたくさんいるじゃないか？と言われますが、若い人を見かけたことは少ないでしょう。やっている人は他省から来ている人です。

上海人は太極拳などやりません。

4. 40 歳代中頃の女性

中国の子供は過保護でひ弱な子供ばかりではありません。うちの娘は小1ですが、週に1回バレエ教室に行き、夏はスイミングスクールに通います。団地の遊具で遊ぶのが好きですし、遊園地へ行くのも大好きで、いろいろな乗り物に乗ります。動きが大きいものが好きです。中国の子供は過保護だと決めつけてはダメです。いろいろな家庭があり、色々な子供がいます。

5. 40 歳代後半の男性

過保護かどうかに関係なく、この頃の子供は忙しすぎます。うちの子供は高2ですが、勉強が忙しすぎて運動などしている暇はありません。中国の大学入試制度が大幅に変わらない限り、中国の子供の体力不足は続くでしょう。

多分、うちの子供も今絶叫マシンに乗れば、すぐめまいを起こすでしょう。

体力ぎりぎり勉強をしています。私は身体も鍛えるべきだとは思いますが、今の社会情勢から考えれば勉強優先とせざるを得ません。

6. 40歳代中頃の女性

私たち夫婦は両親が近くに住んでいないので、子供は私たちの手で育てています。今、小1になりましたが、学校は車で送り迎え、ピアノ教室も絵画教室も送り迎えです。

これは過保護ではありません。上海ではこれが当たり前、こうしないと子供は何も出来ないという社会構造なのです。小学校低学年の子供は危なくて一人では道を歩けません。

電動自転車は信号などおかまいなしで走っているし、自転車は歩道をかなりのスピードで走ります。日本人の皆さんから過保護と見える状態は、中国では“常態”なのです。

(私はこの子が生まれた時から知っていますが、日本人の私から見ればかなりの過保護です。1歳半くらいまで育児専門のお手伝いさんがいたし、かなり大きくなるまで親がスプーンで食べさせていました。今でも着替えは全部親が手伝っています。この子が自主性を発揮するのは絵を描く時です。これは誰の意見も聞かず自分の思うように書いています。因みにこの子の伯父さんは高名な画家です)

7. 20歳代前半の女子大生

小さい時から外でやる遊びは何もやらなかったです。そうそう、自転車は団地の中で乗っていました。学校の体育の時間も一生懸命やった覚えはありません。絶叫マシンですか？ あまり興味がありません。でも、私は結構活発ですよ。車は3600ccのジープ、サハラに乗っています。私も一般的に言えば過保護かもしれないけれど、過保護とひ弱さはある年齢になれば関係なくなりますよ。

8. 20歳代前半の男子学生

武漢の絶叫マシンの設定が緩いのは過保護とは関係ないと思うよ。中国には大掛かりな遊園地が殆どなく、ジェットコースターや絶叫マシンのような乗り物に乗ったことがないから耐性がないだけでしょう。私を含めて若者は好奇心が旺盛だから、一度乗れば緩い設定では満足しなくなると思います。武漢の遊園地もそのうち設定を上げるでしょう。もし、上海に出来れば僕も乗ってみた

いです。

9. 20歳代後半の女性

うちの子はまだ小さいから絶叫マシンなどには乗れないし、私もそのような乗り物に乗ったことがないからコメントできないけれど、子供は動くものが好きだから武漢の遊具も慣れの問題だと思います。設定を緩くしているのは施設側の安全策（責任逃れ）だからでしょう。

10. 60歳代の男性

う～ん、過保護と言われれば過保護だけれど、孫を預かっている立場から言えば、中国風に普通にやっているだけです。幼稚園は家族による送迎を要求するし、小学校の宿題の連絡は親（我家では私の妻が登録しているので祖母のところへ連絡が来る）に来るし、親または祖父母が全面的に子供を保護する社会構造になっているのです。この構造から外れた子供は可哀想です。

11. 40歳代後半の男性

私共は上海に住んでいるけれど、夫婦とも上海人ではありません。子供の進学には差別があるので、留学させるつもりでインターナショナルスクールに入れています。同級生は皆元気がいいですよ。近所の子供を観察すると元気に走り回っているのは他省から来ている家族の子供で、上海っ子は家に引っ込んでいます。教育方針が違うのかもしれませんが、家族連れで行く会社の慰安会でも上海っ子はいつも親にくっついており、走り回っているのはわが娘だけです。ただ、我が家も過保護で「わがまま」なのは同じです。

話を聞いた人の殆どが自分の子供あるいは孫が過保護であることを認めている。しかし、それは中国の社会構造がそうせざるを得ないようになっているからだと言っている。中国の中流家庭を見ているとそれも一理ありかと思わされる。過保護とひ弱さはあると思うが、どうやら若者は自分がひ弱さとは思っていないようだ。絶叫マシンの設定が緩いのはひ弱さとは関係ないとの意見が多かった。

米ワシントン大学の保健指標評価研究所が行った調査で、中国の過体重、肥満の人口は3億人に達し、米国に次ぐ世界2位であることが明らかになった。肥満度の目安となるBMI指数（25以上を過体重、30以上を肥満）で算出した中国の肥満人口は4600万人で、過体重も含めると3億人に上る。中国の成年

男子の28%、成年女性の27%が過体重または肥満だった。子供や青少年の肥満も深刻で、20歳以下の中国人男性の23%が過体重または肥満で、女性も14%に上る。専門家は「運動不足と不健康な食事が肥満の原因だ」と指摘する。また、一人っ子政策により両親などが過保護に走り過ぎた弊害を指摘する声もある。

(参考消息：2014年6月1日付)

以上

【中国経済最新統計】

| | ① 実質 GDP 増加率 (%) | ② 工業付 加価値 増加率 (%) | ③ 消費財 小売総 額増加 率(%) | ④ 消費者 物価指 数上昇 率(%) | ⑤ 都市固 定資産 投資増 加率 (%) | ⑥ 貿易収 支 (億\$) | ⑦ 輸出 増加率 (%) | ⑧ 輸入 増加率 (%) | ⑨ 外国直 接投資 件数の 増加率 (%) | ⑩ 外国直 接投資 金額増 加率 (%) | ⑪ 貨幣供 給量増 加率 M2(%) | ⑫ 人民元 貸出残 高増加 率(%) |
|--------------|------------------------------|-------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|-------------------------------------|------------------------|-----------------------|-----------------------|--------------------------------------|-------------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|
| 2005年 | 10.4 | | 12.9 | 1.8 | 27.2 | 1020 | 28.4 | 17.6 | 0.8 | ▲0.5 | 17.6 | 9.3 |
| 2006年 | 11.6 | | 13.7 | 1.5 | 24.3 | 1775 | 27.2 | 19.9 | ▲5.7 | 4.5 | 15.7 | 15.7 |
| 2007年 | 13.0 | 18.5 | 16.8 | 4.8 | 25.8 | 2618 | 25.7 | 20.8 | ▲8.7 | 18.7 | 16.7 | 16.1 |
| 2008年 | 9.0 | 12.9 | 21.6 | 5.9 | 26.1 | 2955 | 17.2 | 18.5 | ▲27.4 | 23.6 | 17.8 | 15.9 |
| 2009年 | 9.1 | 11.0 | 15.5 | ▲0.7 | 31.0 | 1961 | ▲15.9 | ▲11.3 | ▲14.9 | ▲16.9 | 27.6 | 31.7 |
| 2010年 | 10.3 | 15.7 | 18.4 | 3.3 | 24.5 | 1831 | 31.3 | 38.7 | 16.9 | 17.4 | 19.7 | 19.8 |
| 2011年 | 9.2 | 13.9 | 17.1 | 5.4 | 24.0 | 1549 | 20.3 | 24.9 | 1.1 | 9.7 | 13.6 | 14.3 |
| 2012年 | 7.7 | 10.0 | 14.3 | 2.7 | 20.7 | 2303 | 7.9 | 4.3 | ▲10.1 | ▲3.7 | 13.8 | 15.0 |
| 6月 | 7.6 | 9.5 | 13.7 | 2.2 | 21.8 | 317 | 11.3 | 6.3 | -16.3 | -6.9 | 18.5 | 16.0 |
| 7月 | | 9.2 | 13.1 | 1.8 | 20.6 | 251 | 1.0 | 5.7 | -7.8 | -8.6 | 18.9 | 16.0 |
| 8月 | | 8.9 | 13.2 | 2.0 | 19.4 | 267 | 2.7 | -2.7 | -12.7 | -1.4 | 18.4 | 16.1 |
| 9月 | 7.4 | 9.2 | 14.2 | 1.9 | 23.1 | 277 | 9.8 | 2.3 | -6.4 | -6.8 | 19.8 | 16.2 |
| 10月 | | 9.6 | 14.5 | 1.7 | 22.4 | 320 | 11.5 | 2.2 | 1.8 | -0.2 | 14.6 | 15.9 |
| 11月 | | 10.1 | 14.9 | 2.0 | 20.0 | 196 | 2.8 | -0.1 | -8.7 | -5.4 | 14.5 | 15.7 |
| 12月 | 7.9 | 10.3 | 15.2 | 2.5 | 18.8 | 316 | 14.0 | 6.0 | -7.8 | -4.5 | 14.4 | 15.0 |
| 2013年 | 7.7 | 9.7 | 11.4 | 2.6 | | | | | | | | 14.1 |
| 1月 | | | | 2.0 | 20.8 | 291 | 25.0 | 29.0 | -12.4 | -3.4 | 15.9 | 15.4 |
| 2月 | | | | 3.2 | | 153 | 21.7 | -14.9 | -35.6 | 6.3 | 15.2 | 15.1 |
| 3月 | 7.7 | 8.9 | 12.6 | 2.1 | 21.5 | -9 | 10.0 | 14.2 | -19.7 | 5.7 | 15.7 | 14.9 |
| 4月 | | 9.3 | 12.8 | 2.4 | 19.8 | 182 | 14.6 | 16.6 | 13.9 | 0.4 | 16.1 | 14.9 |
| 5月 | | 9.2 | 12.9 | 2.1 | 19.7 | 204 | 0.9 | -0.1 | -14.4 | 0.3 | 15.8 | 14.5 |
| 6月 | 7.5 | 8.9 | 13.3 | 2.7 | 19.9 | 271 | -3.3 | -0.9 | -17.3 | 20.1 | 14.0 | 14.1 |
| 7月 | | 9.7 | 13.2 | 2.7 | 20.2 | 178 | 5.1 | 10.8 | 1.2 | 24.1 | 14.5 | 14.3 |
| 8月 | | 10.4 | 13.4 | 2.6 | 21.4 | 285 | 7.1 | 7.1 | -11.7 | 0.6 | 14.7 | 14.1 |
| 9月 | 7.8 | 10.2 | 13.3 | 3.1 | 19.6 | 152 | -0.4 | 7.4 | -16.8 | 4.9 | 14.2 | 14.3 |
| 10月 | | 10.3 | 13.3 | 3.2 | 19.2 | 311 | 5.6 | 7.5 | -8.2 | 1.2 | 14.3 | 14.1 |
| 11月 | | 10.0 | 13.7 | 3.0 | 17.6 | 338 | 12.7 | 5.4 | -9.3 | 2.3 | 14.2 | 14.2 |
| 12月 | 7.7 | 9.7 | 13.6 | 2.5 | 17.2 | 256 | 4.3 | 8.6 | -3.4 | -42.6 | 13.6 | 14.1 |
| 2014年 | | | | | | | | | | | | |
| 1月 | | | | 2.5 | 19.8 | 319 | 10.5 | 10.8 | -8.6 | -4.5 | 13.2 | 14.3 |
| 2月 | | | | 2.0 | | -230 | -18.1 | 10.4 | 1.3 | 4.0 | 13.3 | 14.2 |
| 3月 | 7.4 | 8.8 | 12.2 | 2.4 | 17.3 | 77 | -6.6 | -11.3 | 6.1 | -1.5 | 12.1 | 13.9 |
| 4月 | | 8.7 | 11.9 | 1.8 | 16.6 | 185 | 0.8 | 0.7 | 0.5 | 3.4 | 13.2 | 13.7 |
| 5月 | | 8.8 | 12.5 | 2.5 | 16.9 | 359 | 7.0 | -1.7 | 8.4 | -6.6 | 13.4 | 13.9 |
| 6月 | 7.5 | 9.2 | 12.4 | 2.3 | 17.9 | 316 | 7.2 | 5.5 | 10.3 | 0.2 | 14.7 | 14.0 |
| 7月 | | 9.0 | 12.2 | 2.3 | 15.6 | 473 | 14.5 | -1.5 | 14.0 | -17.0 | 13.5 | 13.4 |
| 8月 | | 6.9 | 11.9 | 2.0 | 13.3 | 498 | 9.4 | -2.1 | 5.2 | -14.0 | 12.8 | 13.3 |
| 9月 | 7.3 | 8.0 | 11.6 | 1.6 | 11.5 | 310 | 15.1 | 7.2 | 9.4 | 1.9 | 11.6 | 13.2 |
| 10月 | | 7.7 | 11.5 | 1.6 | 13.9 | 454 | 11.6 | 4.6 | 8.7 | 1.3 | 12.1 | 13.2 |
| 11月 | | 7.2 | 11.7 | 1.4 | 13.4 | 545 | 4.7 | -6.7 | -8.6 | 22.2 | 12.0 | 13.4 |
| 12月 | 7.3 | 7.9 | 11.9 | 1.5 | 12.6 | 496 | 9.5 | -2.3 | 6.1 | 10.3 | 11.0 | 13.6 |

- 注：1. ①「実質 GDP 増加率」は前年同期（四半期）比、その他の増加率はいずれも前年同月比である。
2. 中国では、旧正月休みは年によって月が変わるため、1月と2月の前年同月比は比較できない場合があるので注意されたい。また、（ ）内の数字は1月から当該月までの合計の前年同期に対する増加率を示している。
3. ③「消費財小売総額」は中国における「社会消費財小売総額」、④「消費者物価指数」は「住民消費価格指数」に対応している。⑤「都市固定資産投資」は全国総投資額の86%（2007年）を占めている。⑥—⑧はいずれもモノの貿易である。⑨と⑩は実施ベースである。

出所：①—⑤は国家统计局統計、⑥⑦⑧は海関統計、⑨⑩は商務部統計、⑪⑫は中国人民銀行統計による。